

# 都市再生整備計画

お だ わ ら え き し ゅ う へ ん ち く だ い き  
小田原駅周辺地区(第4期)

か な が わ け ん お だ わ ら し  
神奈川県 小田原市

令和8年3月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	神奈川県	市町村名	小田原市	地区名	小田原駅周辺地区(第4期)	面積	217.06 ha
計画期間	令和 8 年度 ~ 令和 12 年度	交付期間	令和 8 年度 ~ 令和 12 年度				

<p><b>目標</b></p> <p>大目標:史跡やまちなかのストック活用と都市基盤強化による都市の魅力とエリア価値の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小田原駅西口エリアの都市機能の強化と公民連携体制での複合的更新による暮らしの利便性と質の向上</li> <li>・小田原駅東口・城周辺エリアにおける地域資源を活用した公民連携事業の推進と拠点形成によるエリア価値の向上</li> <li>・小田原駅東西を連携し、安全で快適な暮らしを実現する都市基盤整備</li> </ul>
<p><b>目標設定の根拠</b></p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針)を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人口減少(令和22年までに約34,000人減(国立社会保障人口問題研究所の推計))・少子高齢社会が進展する中、ネット販売など商業環境の変化もあり、商業地域等の小売店・事業所は減少し、地域活力は低下の傾向にある。更に令和2年からは新型コロナウイルスの影響により交流人口も落ち込み、地域経済の低下を促している。</li> <li>○平成29年3月に策定した小田原市立地適正化計画では、こうした課題に対応するため、広域的な都市機能が集積し、“交流・賑わい・魅力があふれる中心市街地”と、“持続可能な地域コミュニティの維持・発展”を都市づくりの理念とし「小田原らしさを生かした賑わいのある多極ネットワーク型コンパクトシティの形成」を目指したまちづくりを推進することとした。</li> <li>○本市は公共交通の利便性(鉄道6路線18駅及びバスネットワーク)が高く、交通結節点や沿線に人口と都市機能が集積し、市街地を概ねカバーする生活サービス施設が立地している。この強みを活かして、人口密度の低下やそれに伴うサービス施設の減少に対応するため、既存ストックを生かした魅力的な都市の拠点づくり、歩いて暮らせる生活圏の構築、生活利便性の持続的な確保に向けた緩やかな居住誘導といった都市づくりの方向性に沿って誘導施策を展開する。</li> <li>○都市機能誘導区域においては、インフラ整備や交通結節機能の向上に加え、地域ごとの特色を生かした文化・観光資源の活用により回遊性の向上を図る。また、土地の高度利用と低未利用地の活用、民間事業への支援策などの誘導施策により、生活の中心となる多様な都市機能の集積を図るとともに、高度な居住地形成を目指す。</li> <li>○居住誘導区域においては、生活サービス施設が持続的に確保されるよう居住の誘導を図る。市外化区域縁辺部等は一般居住区域として、大規模な宅地化を抑制しつつ居住誘導区域への緩やかな誘導を図ることにより拠点内の人口と施設を維持する。</li> <li>○市街化調整区域においては、無秩序・無計画な開発の連鎖による市街地外延化を抑制するため、適切な開発許可事務の運用を進めていく。</li> </ul> <p><b>まちづくりの経緯及び現況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本市は都心からの交通利便性が高く、森里川海がコンパクトにまとまっている魅力がある。</li> <li>○小田原駅周辺地区には商業の並ぶ「まち」と小田原城址等の「観光空間」の双方が共生し、隣接する地区には豊富な歴史的資源を有する板橋・南町周辺や海・漁港を観光に活かした早川駅周辺など広がりのある交流空間を有する強みがある。</li> <li>○これまで小田原駅周辺の商業の賑わいを取り戻すため、地下街再生事業や市民交流センター整備などを進め、中心拠点における都市機能の充実を図る一方、都市機能の利便性のみではなく、小田原城址公園の整備や歴史的建造物の保全活用による観光交流空間整備、また、早川漁港を中心に地域の生業を生かした交流促進施設整備など、都市の個性となる地域資源を活かした持続可能なまちづくりを目指してきた。</li> <li>○こうした中、立地適正化計画(都市機能誘導区域H29/3、居住誘導区域H31/3)を策定し、これら都市再生整備計画事業を多極ネットワーク型コンパクトシティの形成に向けた主要事業として位置付け、平成30年度から令和2年度にかけては、「地方再生コンパクトシティ」のモデル都市として取組を展開し、小田原駅周辺地区では、再開発事業(図書館、子育て支援施設)、市民ホール整備等により都市機能を強化するとともに、箱根板橋駅・南町周辺地区において、歴史的建造物の保全・活用や景観整備・空き店舗活用支援など、公民が連携した地域資源の活用施策を展開し、2地区事業の面輪により駅周辺の交流人口の更なる拡大を図った。</li> <li>○コロナ禍による経済の落ち込みはあったが、取組の推進により、まちなか居住は民間マンション建設の進捗とともに更に増加し、地域活動の機運が高まると同時に地域コミュニティの希薄化や都市個性である古い町並みの消失など、都市の持続可能性におけるメリットと課題の双方が発生する新たな局面を迎えた。</li> <li>○令和3年度から令和7年度にかけては、小田原市立総合医療センター整備等による更なる都市機能強化に加え、市街地において複雑化する都市課題の解決に向け、公共不動産や地域活力を最大限活用したまちづくりを図るべく、公民学の連携組織「アーバンデザインセンター小田原(UDCOD)」を設立(R5~)し、都市デザイン研究、まちなかの既存ストック活用、エアーマネジメント体制の構築を推進した。これにより、箱根板橋駅・南町周辺地区においても地域参画の機運が高まり、地域主体の公共空間活用や地域・観光交流の拠点整備を目指す旧内野醤油店(歴史的建造物)の検討、民間による周辺の空き施設活用が進んでおり、両地区の連携によるまちづくりが定着してきている。</li> <li>※入込客数832万人(令和5年度)/624万人(令和元年度)、観光消費額351億円(令和5年度)/205億円(令和元年度)</li> <li>○UDCODをプラットフォームとした公民によるまちづくり体制の強化を図り、まちなかの既存ストックの活用を通じて地域資源を磨き上げ、インバウンドによる観光交流の増加、居住や地域事業者による地域交流の増加を、地域経済の発展に効果的に繋げるとともに、都市機能の強化を図り、本市ならではの高い暮らしの質を創出し、持続可能な都市形成を目指す。</li> </ul> <p>○なお、市街化調整区域では、無秩序な開発を抑制し、居住の誘導による都市の集約化を図るため、平成30年度に都市計画法第34条第11条に係る条例の改正により、市街化拡大を防止するための制度変更を実施し、運用している。(既存集落持続型開発許可制度の運用H30.11施行)</p>
<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○気候変動に伴う自然災害の激甚化・頻発化等に対応する都市基盤の強化が急務となる。</li> <li>○マンション建設の増加に伴い、地域コミュニティの希薄化や都市個性である古い町並みの消失など、都市の持続性に係る課題が発生しており、UDCODを活用したまちの個性となる資源を活用した公民連携活動の推進が求められる。</li> <li>○地域経済活動や歴史資源の保全・活用、地域コミュニティなど、様々な分野の連携が都市の持続性強化に欠かせないため、地域資源の活用に係る公民の連携意識の醸成とともに、ハード・ソフト両面での一体的な事業推進が求められる。</li> </ul>

将来ビジョン(中長期)  
 【立地適正化計画】  
 ・都市づくりの理念として「小田原らしさを生かした賑わいのある多極ネットワーク型コンパクトシティの形成」を掲げ、本地区については、商業・業務、医療・福祉や公共公益施設をはじめとする高度な都市機能を集約・誘導するとともに、小田原城址を中心とする歴史的・文化的資源の活用による交流の促進を掲げている。  
 【総合計画】  
 ・本地区については、中心市街地における都市機能の適正配置を進めるとともに、民間活力が発揮された取組を促すことで、交流と回遊が活発に行われる賑わいのある中心市街地をつくと掲げている。  
 【都市計画マスタープラン】  
 ・本地区については、再開発の促進等による商業・業務機能等の集積を図るとともに、質の高い駅前市街地空間の整備推進を図ると掲げている。

**都市構造再編集中支援事業の計画 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。**

都市機能配置の考え方  
 【小田原駅周辺】  
 ・鉄道による広域的な交通の結節点であり、県西地域の中核となる広域交流の拠点として商業・業務、医療・福祉や公共公益施設など高度な都市機能を誘導・集約するとともに、小田原城址を中心とする歴史的・文化的資源の活用により交流を促進する。  
 【箱根板橋駅・南町周辺】  
 ・地区内の歴史的資源を生かし、小田原駅周辺の歴史的・文化的資源を連携させ、観光回遊の拠点としての機能を強化し、近隣住民や来訪者の利便性を支える生活サービス施設の誘導を図る。  
 【国府津駅周辺】  
 ・本市第2の交通結節点として、交通結節機能の強化と交通の利便性を活かした都市機能の集積、日常生活に必要な生活サービスの誘導を図る。  
 【早川駅周辺】  
 ・漁港を中心に水産等の地場産業が集積するエリアであり、それらを資源とした観光回遊の拠点として観光機能の強化を図り、近隣住民及び来訪者の利便性を支える生活サービス施設の誘導を図る。  
 【市街地外延部】  
 ・地域コミュニティの維持・発展を図り、農地や自然環境と調和した持続可能な居住地形成を目指す。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方 ※誘導施設を整備する場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。  
 【小田原駅周辺(駅西口)エリア】  
 ・駅西口エリアは、医療・福祉・行政機関等、生活の質の向上を図る機能を充実させる方針である。同エリアに存する広域的な医療機能である小田原市立総合医療センターは、中心駅と高いサービス水準のバス交通でつながれた重要な立地であり、今後も良質な地域医療サービスの持続的な供給を確実にするため、最新の医療機能を備えた新病院として開設するとともに、隣接地に地域住民や来訪者等の利便性を高めるための広場整備や駐車場整備を行う。また、広域的な利用圏域と優良な病院経営により、利用者・来訪者・定住者の増加を図り、地域経済にも効果を波及させる。  
 【三の丸エリア】  
 ・三の丸ホールの新設に伴い、旧市民会館を除却し、当該跡地に広場やゆとりある滞在空間の整備を行うとともに、民間施設の誘致を図ることで、駅からの交流人口を呼び込み、城周辺での滞在時間の増加を図る。  
 ・当該エリアを、駅、城周辺から、宮小路、かまぼこ通りや板橋・南町、早川地区などの観光回遊エリアを結ぶ拠点とし、旧市民会館跡地、市民ホール、観光交流センター(市民ホール隣地)が連携した取組を展開することで、周辺エリアへの回遊性の向上を図る。  
 ・三の丸地区における今後の活発な民間活動を誘発するため、本地区の広場等については公民連携による利活用を進めていく。  
 【小田原城址公園】  
 ・小田原城址公園については、園内の各施設(園路、屋外灯、井戸等)の整備・高質化により、更なる集客性・回遊性の向上を図る。  
 【空き店舗活用】  
 ・これらの取組と併せ、駅周辺の都市機能整備の効果を、市街地全体の持続的な経済活動につなげるため、エリア内の空き店舗については更なる活用策に取り組む。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等  
 ・地域の観光資源充実のための環境整備推進事業  
 ・小田原駅前東地区の整備に向けた検討  
 ・優良建築物等整備事業(栄町二丁目中央地区)  
 ・脱炭素先行地域づくり事業

**目標を定量化する指標**

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
小田原駅乗車人員数	千人/年	小田原駅の年間延べ乗車人員数	歴史的資源を生かしたまちづくり及び既存の官民都市基盤を生かした取組による交流人口の増加	30,937	R6 (R5実績)	31,428	R12
観光客消費額	億円/年	市内の年間の総観光消費額	公民連携の観光交流空間整備等による交流促進と地域活性化	378	R6	484	R12
都市空間活用件数	件	UDCODと連携した都市空間活用の取組・実験回数	地域資源の活用を通じた公民連携体制の構築による地域活性化、暮らしの質の向上	0	R7	27	R12

計画区域の整備方針(冒頭カッコ内において方針の対象となるエリアやその方向性を説明)	方針に合致する主要な事業
<p>【小田原駅西口における都市機能の公民連携体制の複合更新による暮らしの利便性と質の向上】                      (小田原駅西口は、新幹線改札、地域交通・観光バス発着所、タクシープールなどが配置される駅の交通結節機能を起点に、市役所、警察署、市立病院などの公共施設や住宅地が広がる閑静な都市の玄関口である。近年は、民間のマンション建替や再開発計画が動き始め、駅に近接する少年院跡地などの大型遊休地の土地利用も課題となっており、都市機能整備とともに、暮らしの質の充実に向けた住民との連携、検討体制が重要な要素となっている。)                      ・利便性と安全性を備え、効果的な回遊動線の創出を図るための駅西口広場整備及び質の高い都市生活の実現を図るための民間開発や周辺の再開発における公民での検討機会の創出                      ・増加する居住者の心地よい暮らしと憩いの場を創出する市立病院周辺の広場と病院等公共機関エリアへのアクセス利便性を高める道路・公共駐車場の整備</p>	<p>【基幹事業】                      道路：市道2695道路改良事業                      地域生活基盤施設：広場・立体駐車場整備事業                      高質空間形成施設：小田原駅東西自由連絡通路照明設備等高質化事業、                      エリア価値向上整備事業：                      小田原駅・城周辺におけるエリア価値向上整備事業(小田原駅西口の整備に向けた検討、都市デザインの研究・啓発)                      【提案事業】                      事業活用調査：立地適正化計画評価業務                      【関連事業】                      脱炭素先行地域づくり事業(久野地区生活拠点エリア)</p>
<p>【小田原駅東口・城周辺エリアにおける地域資源を活用した公民連携事業の推進と拠点形成によるエリア価値の向上】                      (小田原駅東口は、充実した都市機能や商業機能のある市街地の中に、歴史的資源であり豊富な緑と開けた空間のある小田原城址公園を有するエリアであり、インバウンドも受けて増加する国内外の来訪者、マンション建設で増加する居住者など、観光・地域とも交流人口が更に増加している。エリアの賑わいを地域経済の活性化に効果的に繋げると共に、「史跡のあるまちなか」ならではの魅力的な暮らしの充実を図り、ハード・ソフト両面より、地域資源を活かした都市の持続性向上、エリア価値の向上を図る取組を展開する。)                      ・行政や市民、地域事業者、大学研究室、有識者など様々な主体で構成する「UDCOD(アーバンデザインセンター小田原)」がプラットフォームとなり、空間やまちなみのデザイン研究、まちなかの既存ストックの活用実験を通じた、公民連携のまちづくり体制の構築                      ・民間ノウハウを生かし、日常と観光の交流人口を創出する複合的な機能配置により、周辺エリアに経済・地域活動の効果を波及させるための市民会館跡地の拠点整備及び周辺エリア間を繋ぐ道路空間の改良                      ・良質な景観形成と地区内の住民活動を支える地域内スポーツ施設の外装等の改良</p>	<p>【基幹事業】                      道路：市道2189無電柱化事業、市道0014道路照明灯改良事業                      公園：小田原城址公園整備事業                      高質空間形成施設：ペDESTリアンデッキ歩行空間高質化事業                      エリア価値向上整備事業：                      小田原駅・城周辺におけるエリア価値向上整備事業(市民会館跡地等整備活用事業、都市デザインの研究・啓発、三の丸エリア都市空間活用事業)                      【提案事業】                      地域創造支援事業：社会体育施設の既存施設改修、空き店舗等利活用促進事業                      事業活用調査：立地適正化計画評価業務                      【関連事業】                      地域の観光資源充実のための環境整備推進事業、小田原駅前東地区の整備に向けた検討、優良建築物等整備事業(栄町二丁目中央地区)</p>
<p>【小田原駅東西を連携し、安全で快適な暮らしを実現する都市基盤整備】                      (小田原駅を中心として、行政機関の多い西口と歴史資源と商業等の多い東口のエリアが連携することにより、利便性と暮らしの質が共存する魅力ある都市生活の実現を目指す。)                      ・暮らしと観光の重要な回遊動線となる駅東西自由通路、地下公共通路など駅周辺都市機能の高質化                      ・東西エリアの都市生活を支える道路の改良整備</p>	<p>【基幹事業】                      道路：市道0084(小田原駅西口東町線)災害対応力強化事業                      市道0005(扇町荻窪線)災害対応力強化事業                      高質空間形成施設：小田原駅東口ペDESTリアンデッキ歩行空間高質化事業                      小田原駅東西自由連絡通路照明設備等高質化事業                      【提案事業】                      事業活用調査：立地適正化計画評価業務                      【関連事業】                      小田原駅前東地区の整備に向けた検討、優良建築物等整備事業(栄町二丁目中央地区)                      脱炭素先行地域づくり事業(小田原駅東口エリア)</p>

## その他

(本地区の都市再生に係る隣接地区との関係及びこれまでの経緯等)

- ・小田原駅周辺地区は、隣接する「箱根板橋駅・南町周辺地区」と連携したまちづくりにより効果的に都市再生を図る計画として、平成30年に国交省・内閣府が連携した「地方再生コンパクトシティ」のモデル都市に選定され、「歴史的資源を通じたにぎわいと交流のコンパクトシティの形成」をテーマに事業を推進した。(H30-R2)
- ・前期計画では、モデル都市の取組を踏襲しつつ、コロナ渦からアフターコロナに至る都市環境の変化、取組効果による居住人口の増加や交流人口の増加を捉え、国交省の「市街地2.0」の方針に沿ったエリア価値向上整備事業など、新たな公民連携の体制構築を軸とした事業を展開した。(R3-R7)
- ・当該計画はこれまでの都市再生の方針を踏まえるとともに、増加するまちなか人口やマンション建設、地域活動の機運向上など変化する都市環境を捉えた中で、街の個性を活かした持続可能な都市形成を目的として推進する。

(新たな公民連携体制の構築)

- ・公民学の連携組織であるUDCOD(R5～)がプラットフォームとなり、少子高齢、人口減少、地域コミュニティ、都市個性の持続など、現在の複合的な都市課題について、様々な主体が連携して解決に向けた取組を行うための支援を進めている。
- ・小田原駅・城周辺における都市デザイン調整、史跡、公共空間等の既存ストックの活用、地域主体のまちづくり活動の支援などの取組を展開
- ・事業者、地域住民の参画を促進し、公民によるまちづくりの体制構築が徐々に進んでいる。

(前期計画(R3-R7)の概要)

【小田原駅周辺(駅西口)エリア】

- ・駅西口エリアは、医療・福祉・行政機関等、生活の質の向上を図る機能を充実させる方針である。同エリアに存する広域的な医療機能である小田原市立総合医療センターは、中心駅と高いサービス水準のバス交通でつながれた重要な立地であり、今後も良質な地域医療サービスの持続的な供給を確実にするため、最新の医療機能を備えた新病院として開設するとともに、隣接地に地域住民や来訪者等の利便性を高めるための広場整備や駐車場整備を行う。また、広域的な利用圏域と優良な病院経営により、利用者・来訪者・定住者の増加を図り、地域経済にも効果を波及させる。

【三の丸エリア】

- ・三の丸ホールの新設に伴い、旧市民会館を除却し、当該跡地に広場やゆとりある滞在空間の整備を行うとともに、民間施設の誘致を図ることで、駅からの交流人口を呼び込み、城周辺での滞在時間の増加を図る。
- ・当該エリアを、駅、城周辺から、宮小路、かまぼこ通りや板橋・南町、早川地区などの観光回遊エリアを結ぶ拠点とし、旧市民会館跡地、市民ホール、観光交流センター(市民ホール隣地)が連携した取組を展開することで、周辺エリアへの回遊性の向上を図る。
- ・三の丸地区における今後の活発な民間活動を誘発するため、本地区の広場等については公民連携による利活用を進めていく。

【小田原城址公園】

- ・小田原城址公園については、園内の各施設(園路、屋外灯、井戸等)の整備・高質化により、更なる集客性・回遊性の向上を図る。

【空き店舗活用】

- ・これらの取組と併せ、駅周辺の都市機能整備の効果を、市街地全体の持続的な経済活動につなげるため、エリア内の空き店舗については更なる活用策に取り組む。

(地方再生コンパクトシティにおける 政策間連携体制 連携施策の内容)

【立地適正化計画】

- ・小田原城址公園、道路空間整備、小田原市立救命救急センター建設、隣接する公共駐車場、広場整備をはじめ、空き家・空き店舗、エリア価値向上整備事業(都市デザイン調整や市民会館跡地活用)等、既存ストックの有効活用に係る取り組みは、都市機能や居住機能の集積を生み、賑わいある暮らしやすい市街地づくりに直結する事業となる。

【観光振興・まちづくり】

- ・本事業による拠点の魅力アップが、新たな交流を生み、小田原駅～城～歴史的資源～漁港～一夜城など様々な資源と連動して、観光振興の原動力となる。
- ・事業による効果を更に高めるため、公民学の連携組織であるUDCODIによる新たなまちづくりや地域DMO(小田原市観光協会)・地域連携DMO(かながわ西観光コンベンションビューロー)などのイベントや情報発信により、小田原市観光戦略ビジョンに係る施策を推進する。

【地域コミュニティ】

- ・本市では、市内全地区で、自治会、社会福祉協議会、民生委員、子ども会、商店会等が、それぞれ一体となった地域コミュニティ組織(26地区)を形成しており、各地域が本市総合計画の地域別計画を策定し、持続可能な市民自治のまちを推進している。
- ・本事業のまちづくり協議会等の取組みを地域コミュニティ組織でも共通の目標とすることで、進展する人口減少や少子・高齢社会においても、地域による持続可能なまちづくりが進むことになる。

目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項(都市構造再編集集中支援事業)

様式(1)-④-1

交付対象事業費	4,518.2	交付限度額	2,259.1	国費率	0.5
---------	---------	-------	---------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	交付期間内		交付対象事業費	費用便益比B/C
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分		
道路		市道2189無電柱化事業	小田原市	直	L=170m	R8	R11	R8	R11	400.0	400.0	400.0		400.0	-
		市道2695道路改良事業	小田原市	直	L=50m	R8	R9	R8	R9	220.0	220.0	220.0		220.0	-
		市道0014道路照明灯改良事業	小田原市	直	L=200m	R9	R9	R9	R9	35.0	35.0	35.0		35.0	-
		市道0084(扇町・萩窪線)災害対応力強化事業	小田原市	直	1式	R8	R12	R8	R12	192.0	192.0	192.0		192.0	-
		市道0005(駅西口東町線)災害対応力強化事業	小田原市	直	1式	R8	R12	R8	R12	147.0	147.0	147.0		147.0	-
公園	電線地中化	小田原城址公園整備事業(電線地中化)	小田原市	直	L=1,150m	R8	R11	R8	R11	260.0	260.0	260.0		260.0	-
地域生活基盤施設	広場、緑化施設	広場、緑化施設等整備事業	小田原市	直	A=3,900㎡	R8	R10	R8	R10	1,046.5	1,046.5	1,046.5		1,046.5	-
	立体駐車場	立体駐車場整備事業	小田原市	直	250台	R8	R10	R8	R10	3,161.7	3,161.7	3,161.7		790.4	-
高質空間形成施設	緑化施設等	広場、緑化施設等整備事業	小田原市	直	A=1,096㎡	R9	R10	R9	R10	90.0	90.0	90.0		90.0	-
		小田原駅東口ペDESTリアンデッキ歩行空間高質化事業	小田原市	直	A=1,200㎡	R8	R11	R8	R11	120.0	120.0	120.0		120.0	-
		小田原駅東西自由連絡路照明設備等高質化事業	小田原市	直	1式	R8	R12	R8	R12	80.0	80.0	80.0		80.0	-
エリア価値向上整備事業		小田原駅・城周辺におけるエリア価値向上整備事業	小田原市 UDC小田原	直/間	-	R8	R12	R8	R12	1,912.6	1,912.6	1,232.6	680.0	1,108.8	-
合計										7,664.8	7,664.8	6,984.8	680	4,489.7	…A

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	交付期間内		交付対象事業費	
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分		
地域創造支援事業	空き店舗活用促進事業	空き店舗等利活用促進事業	小田原市	間	15件程度	R8	R12	R8	R12	16.5	16.5	16.5		16.5	
	社会体育施設の既存施設改修	社会体育施設(小田原スポーツ会館)の既存施設改修	小田原市	間	1式	R8	R8	R8	R8	9.0	9.0	9.0		9	
事業活用調査	立地適正化計画評価	立地適正化計画評価業務	小田原市	直	-	R9	R9	R9	R9	3	3	3		3	
まちづくり活動推進事業															
合計										28.5	28.5	28.5	0	28.5	…B

事業	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	交付期間内		交付対象事業費		
					開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分			
居住誘導促進事業															
合計										0	0	0	0	0	…C
												合計(A+B+C)		4,518.2	

(参考)都市構造再編集集中支援関連事業

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	(いずれかに○)				事業期間		全体事業費
					直轄	補助	地方単独	民間単独	開始年度	終了年度	
合計										0	



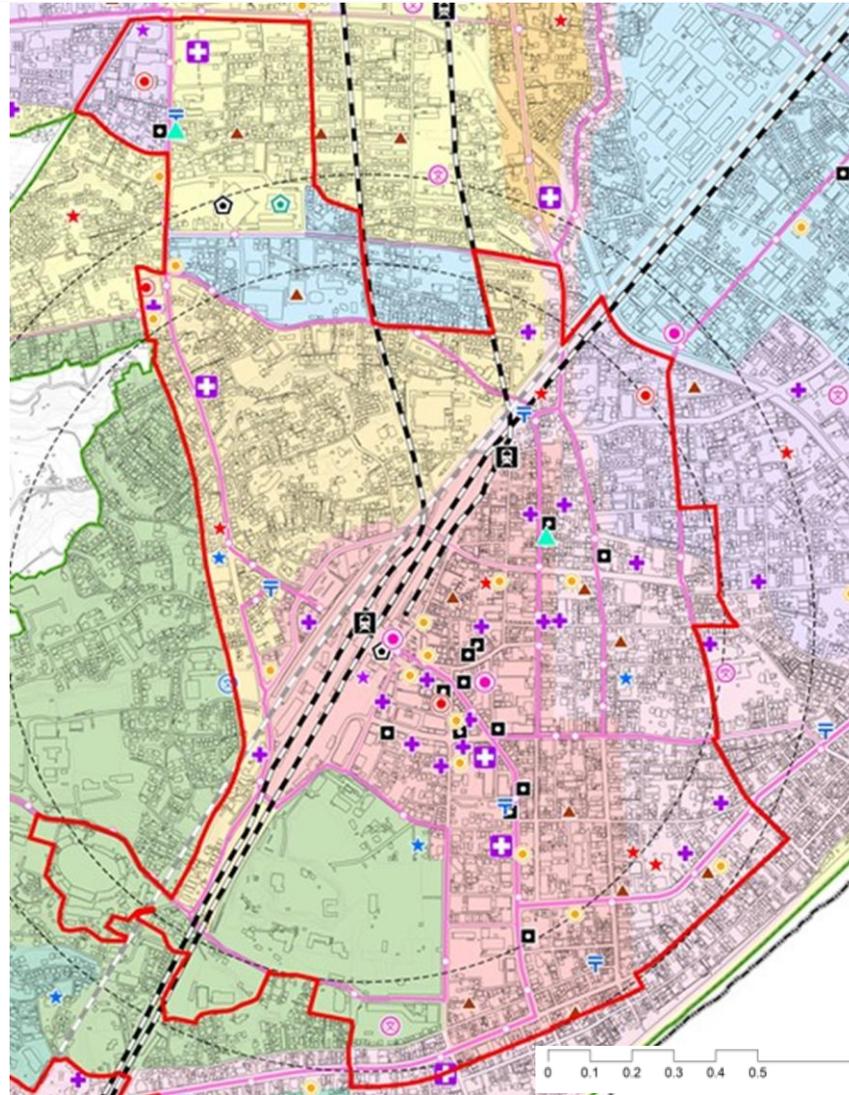
小田原駅周辺地区(第4期)(神奈川県小田原市)

面積

217.06 ha

区域

栄町1～4丁目、浜町1～3丁目の一部、中町1丁目、本町1～2丁目、扇町1丁目の一部、城内、城山1～3丁目、狹窪の一部、久野の一部



凡例

計画区域



都市機能誘導区域



小田原駅周辺地区(第4期)(神奈川県小田原市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	大目標: 史跡やまちなかのストック活用と都市基盤強化による都市の魅力とエリア価値の向上 ・小田原駅西口エリアの都市機能の強化と公民連携体制での複合的更新による暮らしの利便性と質の向上 ・小田原駅東口・城周辺エリアにおける地域資源を活用した公民連携事業の推進と拠点形成によるエリア価値の向上 ・小田原駅東西を連携し、安全で快適な暮らしを実現する都市基盤整備	代表的な指標	小田原駅乗車人員	千人/年	30,937	R6 (R5実績)	→	31,428	R12
			観光消費額	億円/年	378	R6	→	484	R12
			都市空間活用件数	件	0	R7	→	27	R12

